

技術開発実施報告・計画

様式 2

森林技術センター

課 題	14-2 暖温帯有用広葉樹人工林施業体系の確立（ヤマザクラ等の新たな実証試験林（展示林等）の造成）（その2）				開 発 期 間	平成8年度 ～ 平成66年度				
開 発 箇 所	鱒頭国有林 76ほ ₂ 林小班	担 当 部 署	森林技術センター	共 同 研 究 機	技 術 開 発 目 標	5	特 定 区 域 内	特 定 区 域 外	○	
開 発 目 的 (数 値 目 的)	有用広葉樹（ヤマザクラ・イヌエンジュ等）及び特用樹の広葉樹適地判定育成技術等の人工林施業体系化の確立を目的とし、施業実績や実証データを収集し、暖温帯有用広葉樹等の展示林等として活用する。									
年 度 別 実 施 報 告	15年度 実 施 報 告					16年度 実 施 計 画 書				
	実 施 内 容					普 及 指 導				
平成8年度 ①試験地設定②植付（春植）③樹高・根元径・枝長の測定④試験地標示⑤施肥 平成9年度 ①下刈②つる切③生長量調査（樹高・根元径・枝長の測定）④施肥 平成10年度 ①下刈②つる切③生長量調査（樹高・根元径・枝長の測定）④施肥⑤補植 平成11年度 ①下刈②つる切③生長量調査（樹高・根元径・枝長の測定）④補植 平成12年度 ①下刈②生長量調査（樹高・根元径・枝長の測定） 平成13年度 ①補植②下刈③生長量調査（樹高・根元径・枝長の測定） 平成14年度 ①下刈②生長量調査（樹高・根元径・枝長の測定）	1, 下刈（本年度不実行） 台風等で作業道通行不能のため 2, 試験地調査（生長量） 平成15年11月調査（野帳別途保管） 人工数：4,500人					1, 実施結果 下刈作業を計画していたが、長雨・台風被害等で、作業道が通行不能になり作業が出来なかった。 センダン・ヤマザクラは生育良好である。 キリについては、コウモリガの被害が発生し枯損が多い。 ミズメに野兎食害による被害が発生したが枯損せず生育はしている。 ユリノキに風害による折損・倒木が発生した。 （試験地は風当たりが非常に強い）				
技術開発委員会における意見										

(注) 1 「課題」欄には、技術開発課題名の他に番号を付して記入すること。
 2 「特定区域内外」欄には、技術開発課題の実施箇所について、特定区域内は「○」、特定区域外は「●」、特定区域内外両方は、「◎」のいずれかを記入すること。
 3 「技術開発目標」欄には、「九州森林管理局における技術開発目標（九州森林管理局長通達）」の1～5のうち、該当する目標の番号を記入すること。
 4 「技術開発委員会における意見」欄には、技術開発委員会における意見を記入すること。

試験経過記録

区分	自主課題
----	------

森林技術センター

(様式3-1)

平成14年度実施内容

1, 下刈 (6月)

面積: 1.00 ha

人工数: 10.500 人

筋刈: ヤマザクラ・センダン

全刈: ユリノキ・ミズメ

坪刈: キリ

2, 試験地調査 (生長量)

平成14年11月~12月調査 (野帳別途保管)

人工数: 7.000 人

考察

センダン・ヤマザクラは生育良好である。

キリについては、コウモリガの被害が発生し枯損が多い。

ミズメに野兎食害による被害が発生した。

ユリノキに風害による折損・倒木が発生した。

(試験地は風当たりが非常に強い)

平成15年度実施内容

1, 下刈 (本年度 不実行)

台風等で作業道通行不能のため

2, 試験地調査 (生長量)

平成15年11月調査 (野帳別途保管)

人工数: 4.500 人

樹種	根元径(mm)	樹高(cm)	枝張(cm)	備考
サクラ	(69)	624	159	
センダン	(48) 61	382	103	
ユリノキ	30	154	29	
ミズメ	16	173	31	
キリ	枯死多く未調査			

考察

下刈作業を計画していたが、長雨・台風被害等で、作業道が通行不能になり作業が出来なかった。センダン・ヤマザクラは生育良好である。キリについては、コウモリガの被害が発生し枯損が多い。ミズメに野兎食害による被害が発生したが枯損せず生育はしている。ユリノキに風害による折損・倒木が発生した。(試験地は風当たりが非常に強い)

- 記載要領
- 1 調査結果及び考察を記入する。
 - 2 状況写真は別途整理する。

状況記録写真

区分	自主
----	----

森林技術センター

(様式6)



下刈実行前(全景) H15.6/6撮影

本年度不実行(長雨・台風被害で作業道通行不能のため)



下刈前 H15.6/6



状況記録写真

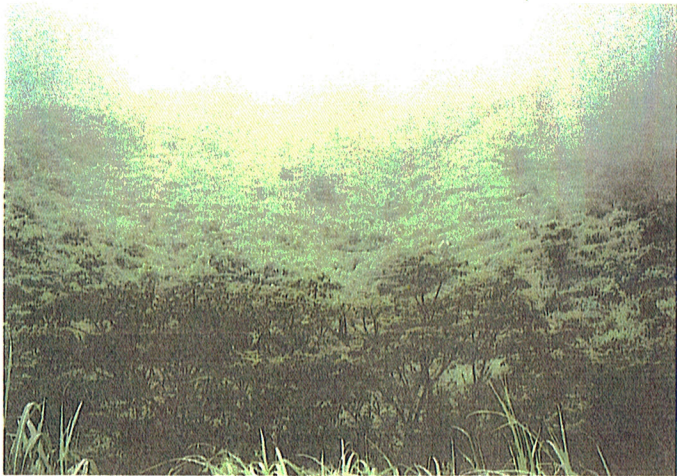
区分	自主
----	----

森林技術センター

(様式6)



本年度は台風被害(作業道が崩れ通行不能)の為、下列作業は不実行となった。 H15.8.1撮影



同上

技術開発実施報告・計画

様式 2

森林技術センター

課 題	14-2 暖温帯有用広葉樹人工林施業体系の確立（ヤマザクラ等の新たな実証試験林（展示林等）の造成）（その2）				開 発 期 間	平成8年度 ～ 平成66年度		
開 発 箇 所	鱒頭国有林 76ほ2林小班	担 当 部 署	森林技術センター	共 同 研 究 機	技 術 開 発 目 標	5	特 定 区 域 内 外	○
開 発 目 的 (数 値 目 的)	有用広葉樹（ヤマザクラ・イヌエンジュ等）及び特用樹の広葉樹適地判定育成技術等の人工林施業体系化の確立を目的とし、施業実績や実証データを収集し、暖温帯有用広葉樹等の展示林等として活用する。							
年 度 別 実 施 報 告	16年度 実 施 報 告				17年度 実 施 計 画 書			
	実 施 内 容				普 及 指 導		1 試験地管理	
平成8年度 ①試験地設定②植付（春植）③樹高・根元径・枝長の測定④試験地標示⑤施肥 平成9年度 ①下刈②つる切③生長量調査（樹高・根元径・枝長の測定）④施肥 平成10年度 ①下刈②つる切③生長量調査（樹高・根元径・枝長の測定）④施肥⑤補植 平成11年度 ①下刈②つる切③生長量調査（樹高・根元径・枝長の測定）④補植 平成12年度 ①下刈②生長量調査（樹高・根元径・枝長の測定） 平成13年度 ①補植②下刈③生長量調査（樹高・根元径・枝長の測定） 平成14～15年度 ①下刈②生長量調査（樹高・根元径・枝長の測定）	1 下刈 面積：1.00ha 人工数：5,000人 2 試験地調査（生長量） 平成17年3月調査（野帳別途保管） 人工数：1,250人		ヤマザクラ・センダンの生長は良好である。 ユリノキは強風による倒木・樹幹変形をしている。風当たりの強いところは不適である。					
技術開発委員会における意見								

(注) 1 「課題」欄には、技術開発課題名の他に番号を付して記入すること。
 2 「特定区域内外」欄には、技術開発課題の実施箇所について、特定区域内は「○」、特定区域外は「●」、特定区域内外両方は、「◎」のいずれかを記入すること。
 3 「技術開発目標」欄には、「九州森林管理局における技術開発目標（九州森林管理局長通達）」の1～5のうち、該当する目標の番号を記入すること。
 4 「技術開発委員会における意見」欄には、技術開発委員会における意見を記入すること。

「暖温帯有用広葉樹人工林施業体系の確立（その2）（ヤマザクラ等の新たな実証試験林（展示林等）の造成）」

写真1 ヤマザクラ生育状況



写真2 ユリノキ生育状況



写真3 ミズメ生育状況



写真4 キリ生育状況



技術開発実施報告・計画

様式 2

森林技術センター

課 題	14-2 暖温帯有用広葉樹人工林施業体系の確立（ヤマザクラ等の新たな実証試験林（展示林等）の造成）（その2）				開 発 期 間	平成8年度～平成66年度 変更期間 平成8年度～平成18年度		
開 発 箇 所	鱒頭国有林 76ほ2林小班	担 当 部 署	森林技術センター	共 同 研 究 機 関	技 術 開 発 目 標	5	特 定 区 域 内	特 定 区 域 外 <input type="radio"/>
開 発 目 的 (数 値 目 的)	有用広葉樹（ヤマザクラ・イヌエンジュ等）及び特用樹の広葉樹適地判定育成技術等の人工林施業体系化の確立を目的とし、施業実績や実証データを収集し、暖温帯有用広葉樹等の展示林等として活用する。							
年 度 別 実 施 報 告	17年度 実 施 報 告				18年度 実 施 計 画 書			
	実 施 内 容				普 及 指 導			
平成8年度 ①試験地設定②植付（春植）③樹高・根元径・枝長の測定④試験地標示⑤施肥 平成9年度 ①下刈②つる切③生長量調査（樹高・根元径・枝長の測定）④施肥 平成10年度 ①下刈②つる切③生長量調査（樹高・根元径・枝長の測定）④施肥⑤補植 平成11年度 ①下刈②つる切③生長量調査（樹高・根元径・枝長の測定）④補植 平成12年度 ①下刈②生長量調査（樹高・根元径・枝長の測定） 平成13年度 ①補植②下刈③生長量調査（樹高・根元径・枝長の測定） 平成14～16年度 ①下刈②生長量調査（樹高・根元径・枝長の測定）	実施事項なし				1 生長量調査（樹高・根元径・枝長） 2 写真記録 3 データ分析 平成18年度完了予定			
技術開発委員会における意見								

(注) 1 「課題」欄には、技術開発課題名の他に番号を付して記入すること。
 2 「特定区域内外」欄には、技術開発課題の実施箇所について、特定区域内は「○」、特定区域外は「●」、特定区域内外両方は、「◎」のいずれかを記入すること。
 3 「技術開発目標」欄には、「九州森林管理局における技術開発目標（九州森林管理局長通達）」の1～5のうち、該当する目標の番号を記入すること。
 4 「技術開発委員会における意見」欄には、技術開発委員会における意見を記入すること。